

元気で躍進 地域経済

フードドライブで贈呈

市が仲立ち 丸井食品からはぐみへ



「たまり冷やし中華スープ」を持つ（左から）竹上市長、西山社長、四十崎社長、川北主任＝市役所で

（有）丸井食品三重工場（本社）松阪市駅前田町、西山典孝代表取締役社長が、しょうゆと間違えてたまりしょうゆを使って製造してしまった

「たまり冷やし中華スープ」（1・8リットル）66本が、市の仲立ちによって市立中学校などの給食を届け負う（納はぐみ）（本社）四日市市、四十崎智仁代表取締役社長に贈呈されることになった。「もったいない」が「ありがと」に変わる。フードドライブ贈呈式が20日午後3時から市役所で行われた。

2年連続死亡災害ゼロ

厚労省三重労働局松阪労働基準監督署（藤田香置長）は20日、2022（令和4）年の労働災害発生状況（確定値）を発表した。それによると、休業4日以上の死傷者数は273人で、前年比24人（9・6％）増加したが、死者はなく、前年に続いて2年連続で死亡災害ゼロとなった。2年連

支援する市中小企業ハンズオン支援事業の2022（令和4）年度支援事業者でもある。同社ホームページの3月23日のスタッフブログに「誰かもらって頂けませんか？」という記事が載ったのを見た竹上真入市長が翌日に同社を訪問。「学校給食に使えないか」と考え、松

阪の学校給食のメニューには冷やし中華はなく、市教育委員会給食管理課で検討した結果、給食センター・ベルランチや北部学校給食センターの業務を受託しているはぐみに66本を引き取ってもらうことだ。

「冷やし中華スープ」は同社の自主商品として夏場に向けて売り出そうと製造。ところが、レジでは「しょうゆ」なのに、伊勢ごんのたれなどに使う「たまりしょうゆ」を入れてしまった。混ぜ合わせている時に気

付いたという。仕方がないので600円（1・8リットル3本分）作った。「本来なら間違った商品は産業廃棄物として廃棄していたところなんですけど、自社で開発担当者らと食べたところ、もしかする」としょうゆの冷やし中華よりおいしいんじゃないかということと、これを捨ててしまうのもSDGsに取り組んでいる会社としてはどうなんだという声が社内から上がりまして」と西山社長（39）。ブログを見たラーメン店が「今年

道路貨物運送業が44人（同25・7％増）、小売業が39人（同50・0％増）、社会福祉施設が28人（同7・7％増）、林業が6人（増減なし）。製造業では減少、林業は同数だったが、それ以外では軒並み増加。特に小売業や建設業で増加が著しい。

事故の別では、転倒が74人（全災害の27・1％）、墜落・転落が49人（同17・9％）、無理な動作等（主に腰痛）が29人（同10・6％）、はさまれ、

の新たなメニューにしたい」とも思いを受けてくれるなどしたが、3倍濃縮の600円は簡単にはけない。今回ははぐみがまとまった数を活用する運びとなった。

食育支援チームがこども食堂で活用

はぐみでは食育支援チームが中心となって「こども食堂」の事業に取り組んでおり、この夏休み中に松阪市や近隣市町での実施を計画。同チーム主任で管理栄養士の川北みささん（29）は「冷や

し中華以外にも、サラダのドレッシングとか唐揚げに絡めてユージンチーとか、いろいろ試作して「こうかと思っていいます」と目を輝かせる。

西山社長は「産廃になるどころか、こうしてたくさんの方に食べていただけるというのは食品会社としてありがたい」と感謝。竹上市長は「両社を縁で結ぶ、市としても地域経済の振興、食品ロス削減に向けて、いい成果につながった」と喜んだ。